

平成 30 年 6 月 21 日現在

機関番号：27101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K03326

研究課題名(和文) 東アジア伝統地域秩序の再考察：朝貢体制の原理、規範、慣行

研究課題名(英文) Rethinking the Traditional East Asian Regional Order: The Tribute System as a set of Principles, Norms, and Practices

研究代表者

金 鳳珍 (Kim, Bongjin)

北九州市立大学・外国語学部・教授

研究者番号：90254614

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：近年、(冊封)朝貢体制の多層的枠組とその機能を分析考察する一群の国際関係学者の研究が次々と出現している。そうして東アジア伝統地域秩序に対する誤解や偏見を批判的に省察すべく、新たな朝貢体制論が形成されつつある。しかしその大きな欠陥と言えば、これらの研究は、その秩序を支えた儒教の原理にはやや疎い。それを補うために本研究は、儒教の秩序原理を思想史的に再考察し、「朝貢体制の原理、規範、慣行」の一部を明らかにした。関連してまた、朝貢体制の近代国際秩序と違う形の位階と固有の主権観念を分析考察した。これは今なお根強い近代主義的な理解や解釈を問いただし、かつ東アジア発の国際関係理論の発明に役立つのだろう。

研究成果の概要(英文)：In recent years, a few scholars in the field of international relations (IR) have attempted to examine the tribute system - its multilateral frameworks and functions. By doing this, new theories of the tribute system are emerging, for critically reflecting on misunderstandings or biases to the traditional East Asian regional order. However, we may indicate their shortcomings, somewhat ignorant of Confucian principles, constitutive of the order. In order to make up for their shortcomings by rethinking the traditional East Asian regional order, I tried to make clear the tribute system as a set of principles, norms, and practices in part. In relation to this, I examined ideas of hierarchy and endemic sovereignty resided in the tribute system - typically different from those in the modern international order. It could be useful for inquiring into the deep-rooted problems of the modernistic understanding and explanation, and inventing new IR theories rooted in the East Asian traditions.

研究分野：東アジア国際関係、比較思想

キーワード：朝貢体制 下位体制 儒教的原理 事大交隣 公天下 礼・理 位階(hierarchy) 主権(sovereignty)

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 東アジアは近年、ある種の文明史的大転換を迎えているように思われる。その最たる要因は「中国の台頭 China's rise」という現象の急速な進行にある。中国の台頭をどう理解するか。将来、東アジアにはどのような地域秩序が築かれるのだろうか。こうした問題は国際関係学者の大きな関心事となり、様々な解釈が出ている。現実主義の脅威論、自由主義の協調論、構成主義(constructivism)の社会化論、そして東アジア共同体論など。しかしこれらの解釈は西洋中心的(West-centric)な見方による議論である。それゆえ、東アジア伝統地域秩序や(冊封)朝貢体制には概ね無関心である。また東アジアの伝統思想・文化の要素にも無理解であるとの欠陥をもつ。

(2) 日本では、1990年代以降、朝貢体制の中の貿易システム(=互市体制)に注目した一連の研究が出現した。これらの研究は朝貢体制の下位体制たる貿易システムに偏っている。そこには近世日本が朝貢体制(の上位体制)に入っておらず、互市体制の貿易関係のみを結んでいたという歴史が響いているのだろう。

また米国では、新清史(New Qing History)の学派と呼ばれる一群の学者の研究により、朝貢体制だけでは歴代中国とくに清代中国の外交関係の全容が描けないという見方が広まった。すなわち清代中国と、儒教文化を共有していなかった非中華圏との外交関係は朝貢体制では捉えられない異例(anomalies)ということである。にもかかわらず、朝貢体制が東アジア伝統の国際関係の代表的形態であったことは否めない。

以上の諸研究は朝貢体制そのものと、その儒教の秩序原理にはほぼ触れていない。

(3) 近年、朝貢体制の多様な側面とその機能を考察する一群の国際関係学者の研究が次々と出現している。その大多数は中国系、

韓国系の学者である。例えば、韓国系の David Kang(2010)は、朝貢体制が中華圏の国家間の平和と安定をもたらしたとの肯定的側面を考察した。そしてその位階(hierarchy)の制度と儒教文化の機能を強調した。また中国系学者も欧米学者も、*Chinese Journal of International Politics* を主な媒体とし、朝貢体制の枠組とその機能を考察している。ただしその大きな欠陥を言えば、これらの研究もやはり、朝貢体制の儒教的秩序原理にほぼ触れていない。

## 2. 研究の目的

(1) 東アジア伝統地域秩序の実像を明らかにすべく、朝貢体制の重層構造の枠組モデルを打ち立てた上、儒教の秩序原理の一部を明らかにする。そして朝貢体制の—近代国際秩序と違う形の—位階と固有の(endemic)主権観念を分析考察する。それによって、今なお根強い近代主義的な理解を問いただし、東アジア発の国際関係理論の発明に役立たせることを目指す。

(2) 本研究の具体的な内容は次の通りである。

### **朝貢体制の重層構造の枠組**

### **朝貢体制の原理、規範、慣行**

### **朝貢体制の位階と固有の主権観念**

### **中国の台頭と東アジア地域秩序の将来**

## 3. 研究の方法

(1) まず、西洋中心的な近代主義の視点を乗り越えるべく、金鳳珍(2004)が提起した「アジアから考える」視点および文明論的な視点を用いる。その文明論的視点とは、伝統と近代それぞれの特異と普遍、正と負の両側面を相対主義的に見る視点である。次に、朝貢体制を多次元的な視点(multi-dimensional view)から捉えて、その下位体制(sub-systems)を含む重層構造の枠組を明ら

かにする。第三に、周辺諸国の準体制 (semi-systems)を視野に入れて、朝鮮の事大交隣体制を比較史の視点から明らかにする。第四に、儒教の秩序原理を思想史的に検討し、既存の朝貢体制論がほぼ触れていない「朝貢体制の原理、規範、慣行」を考察する。第五に、朝貢体制の位階と固有の主権観念を最新の国際関係理論の成果に照らして分析考察する。最後に、中国の台頭と東アジア地域秩序の将来について、国際秩序変動論に照らして考えてみる。

(2) 以上を整理すれば次の通りである。

#### **朝貢体制の重層構造の多次的視点による考察**

#### **朝鮮の事大交隣体制の実像の比較史的考察**

#### **朝貢体制の原理、規範、慣行の思想史的考察**

#### **朝貢体制の位階と固有の主権観念の国際関係理論的考察**

#### **中国の台頭と東アジア地域秩序の将来の国際秩序変動論的考察**

### 4. 研究成果

(1) 主要な研究業績は下記〔雑誌論文〕の Bongjin KIM(2017)である。その要旨は次の通りである。まず、朝貢体制の多層構造の枠組を多次的な視点から検討して精巧な、新しいモデルを打ち立てた。次に、朝貢体制を見做い構成した周辺諸国の準朝貢体制の模範として、朝鮮の交隣体制を考察する。それを通して「交隣の道」という原理と現実の対外関係を明らかにした。第三に、「朝貢体制の原理、規範、慣行」を考察した。その手引として、(新)儒教の「公天下、礼・理」などの概念を検討した。第四に、道教と儒教の言説にみる位階(不平等)と均等(平等)との二分法を解明し、東アジア伝統秩序の位階と均等の特有な意味を探り出した。そうして位階と

いう概念自体を再/概念化するとともに、朝貢体制の構成国のもつ固有の主権観念を引き出した。最後に、朝貢体制の崩壊の原因を批判的に省察したうえ、中国の台頭をどう捉えるか、どう向きあうかを考えてみた。

#### **(2) 朝貢体制とその下位体制：新しいモデル**

朝貢体制は、繰り返し言うが、多様な下位体制を含む多層構造を構成する。同時に、朝貢体制そのものが—相互関連して影響しあう—多様な要素で構成される多面構造をもつ。その構成要素は多いが、例えば、儀礼、文化(=儒教文化)、外交、貿易の四つに整理される。もう一つ、中国と朝貢国との間に機能する相互安全保障も加えられる。ここで朝貢体制の精巧な範型を大きくいえば、封貢体制、下位の封貢体制、冊封ぬきの朝貢体制、互市体制の四つに分けられる。

#### **(3) 準朝貢体制の模範：朝鮮の事大交隣体制**

朝鮮のいわゆる事大交隣体制は、事大と事小との二つの秩序原理によって構成される。その秩序原理は孟子の言う「交隣の道」を指す。朝鮮は、その原理と現実との相克のなかで、朝貢体制の一変形として事大交隣体制を維持し続けたのである。その実像と実態を明らかにしようと、まず、朝・清間の事大関係を考察した。次に、朝鮮と対馬、徳川日本との交隣関係を検討した。

#### **(4) 朝貢体制の原理、規範、慣行**

儒教の秩序原理のなかの「公天下」、「礼・理」を、既存の近代主義的な解釈における誤解を問いたす形で、再考察した。まず、公天下と関連して、Zhao Tingyang (2005)は天下概念を再発明して「天下体制」論を提起し、その正否をめぐる賛否論争を巻き起こしたことがある。本研究は「天下体制」論の意義を部分的に認めるものの、再発明すべき概念は天下ではなく公天下であるとし、その意義を明らかにした。次に、礼とその基盤としての理を分析考察した。そして理(天理)概念のもつ含意を明らかにした。一例を挙げるなら、

理は特有な権利・主権観念を内包し表象するということである。

#### (5) 朝貢体制の位階と固有の主権観念

朝貢体制の位階と固有の主権観念を、近年の一部国際関係学者の理論的成果—例えばLake(2009)の位階(制度)論、Krasner(1999)の主権(分割)論—を参照しつつ分析考察した。それによって、位階や主権をめぐる既存の国際関係論の近代主義的な理解のもつ問題点を問いただすことができた。また、既存の朝貢体制論のみならず国際関係理論の限界を超えて、新たな地平を開き、東アジア発の国際関係理論の発明に役立たせることができた、と期待する。

#### (6) 中国の台頭、東アジア地域秩序の将来

朝貢体制の崩壊とその原因を批判的に省察し、中国の台頭をどう捉えるか、どう向き合うかを問いただした。そして将来の東アジア地域秩序の構想と構築を考えてみた。その際、朝貢体制の枠組の復活はありえないことである。しかし、その儒教的秩序原理は再発明すべき価値のある、伝統の遺産ではなかろうかという問題を提起した。本研究は、東アジアひいては世界の国際関係の伝統と近代に対する批判的省察を促し、将来の国際関係(論)の新地平を開こうという脱構築の一環とも位置づけられよう。

<引用文献>

下記〔雑誌論文〕

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

金鳳珍、「朝鮮近代初期対万国公法的接受—从対日開国前夜到朝土視察団」、『人文亞太』、南京大学亞太發展研究中心(南京大学出版社)、査読有、第1輯、2018年1月)、3-55

Bongjin KIM, 'Rethinking the Traditional East Asian Regional Order: The Tribute System as a set of Principles, Norms, and Practices,' in *Taiwan Journal of East Asian Studies*, 査読有、Vol. 14, No. 1 (Issue 27), June

2017, 119-170

DOI: 10.6163/tjeas.2017.14(1)119

金鳳珍、「張保阜の生涯と活動、人物像」、『社会システム研究』、北九州市立大学社会システム研究科、査読有、第14号、2016年3月、1-22

<https://www.kitakyu-u.ac.jp/subjects/graduate/edu/>

〔学会発表〕(計20件)

金鳳珍、「新羅 唐の朝貢体制の様相」、韓国外交史研究会、2017年9月16日

金鳳珍、「統一新羅と唐の朝貢関係」、韓国外交史研究会、2017年6月10日

金鳳珍、「唐代の朝貢体制」、韓国外交史研究会、2017年5月20日

金鳳珍、「朝・清間の冊封・朝貢体制」、韓国外交史研究会、2017年4月22日

金鳳珍、「事大の再解釈」、東洲研究会(ソウル大学)、2017年4月21日

金鳳珍、「The Korean Semi-Tribute System and Its Collapse」, IAS in Hanoi, 2017年3月3日

金鳳珍、「朝鮮=属国、属邦」論考、台湾中央研究院學術研討会、2016年12月9日

金鳳珍、「Rethinking the Traditional East Asian Regional Order」, 國際儒学論壇 2016 (中国人民大学)、2016年12月2日

金鳳珍、「朝貢体制の類型:統一新羅と唐の関係」、韓国外交史研究会、2016年11月26日

金鳳珍、「天下国家と事大秩序」、東洲生誕100周年記念研究会(ソウル大学)、2016年11月4日

金鳳珍、「高句麗の対外関係」、韓国外交史研究会、2016年10月29日

金鳳珍、「冊封・朝貢体制の実像」、韓国外交史研究会、2016年9月24日

金鳳珍、「中華意識の再考察」、韓国思想史学会(忠清南道天安大学)、2016年8月18日

金鳳珍、「朝鮮の対外関係と政策」、韓国外交史研究会、2016年6月18日

金鳳珍、「東アジア伝統地域秩序と朝貢体制」、韓国外交史研究会、2016年5月21日

金鳳珍、「朝鮮古代の冊封・朝貢体制」、韓国外交史研究会、2016年4月16日

金鳳珍、「『瀋陽日記』の研究」、韓国外交史研究会、2015年12月19日

金鳳珍、「朝・中間の朝貢関係」、韓国外交史研究会、2015年10月24日

金鳳珍、「朝貢体制の再解釈」、韓国外交史研究会、2015年9月19日

金鳳珍、「朝貢体制の再解釈」、韓国外交史研究会(ソウル大学)、2015年5月16日

〔図書〕(計1件)

金鳳珍 他、高麗大学亜研出版部、『使行の国際政治：16～19世紀、朝天・燕行録分析』、2016、「洪大容の燕行録の華夷観」(125-166)  
(総420) 原文はハングル

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

金 鳳珍 (KIM, Bongjin)  
北九州市立大学・外国語学部・教授  
研究者番号：90254614

(2)研究分担者

( )

研究者番号：

(3)連携研究者

( )

研究者番号：

(4)研究協力者

( )